

角館

の

お祭り

令和5年 9月7日(木)・8日(金)・9日(土)



囃子わらび座

◆ 曳山のみどころ

七日 午後四時、神明社参拝、十八台の曳山が一斉に神明社へ
八日 午前十時、各曳山が武家屋敷敷道に入り佐竹北家ご当主へお見せにまいります。午後五時三十分、町内八ヶ所所々で観光やまぶつけ(次頁別表)、薬師堂参拝のほか各曳山とも町内に見せながら自由に動きます。
九日 午前十時、薬師堂参拝の曳山、あるいは町内に見せる曳山など。夜八時頃、夕食後、各曳山は偵察員を出し作戦を練りながら曳山ぶつつけの相手はどこか、一番スリルに富んだ時間となります。十日未明まで続きます。

踊り藤美 ◆ お祭りの解説

山車(曳山、やま) 祭の「余興」として出されたものですが今では祭の主役のようになっています。古くは薬師堂の祭にいたったものといわれています。囃子は重々しく、ゆったりとしたサーヤードンという囃子です。

下りやま(道中) 目的地で参拝、お見せした後の帰りの曳山をいいます。囃子は、ペレレ、ペレレと軽いテンポで、道中ともいいます。

交渉(こうしやう) 曳山が丁内に入るとき、曳山と曳山が出合ったときに交渉といって黄色いタスキをかけた曳山の交渉員が挨拶と話し合いをします。曳山では重要な役目で交渉状況により道をゆずることになります。

張番(はりばん) 各丁内に設置され、神明社と薬師堂の御輿を迎えて町内の安全、加護をお祈りするとともに、曳山の出入りの許可や町内でのトラブルの交渉にあたります。各丁内とも年番組織で運営をしています。昔は自丁内の曳山の動きもここから指揮しました。

協賛ありがとうございます

くらしたちのよいを
あべい
 ●食べきりでちょうどいい
 ●美味しいものを食べたいだけ
 グランマートは、あべい商品をご提案しております。

Wonder Mall
 仙北市角館町上菅沢442-1
 TEL0187(54)1600
 食料品売場 朝9時～夜10時まで営業
 衣料品売場 朝9時～夜9時まで営業

味噌・醤油・漬物 **安藤醸造**
 本店/仙北市角館町下新町27
 TEL0187(53)2008 FAX0120(980)080
 北浦本館/仙北市角館町雲然山崎42-1
 花上庵/仙北市角館町表町下丁8
<http://www.andojoyozo.co.jp>

田沢湖 角館 観光協会
 TAZAWAKO KAKUNODATE
<https://tazawako-kakunodate.com/>

株式会社 **おもてなしせんぼく**
 代表取締役社長 相原 智仁
 秋田県仙北市角館町西長野古米沢 30-19
 TEL 0187-55-5888 / FAX 0187-53-3337
花葉館 TEL 0187-55-5888

西宮家 TEL 0187-52-2438
田沢湖ハーフマウンテン TEL 0187-43-2424
クリオン TEL 0187-47-2010
東風の湯 TEL 0187-43-2133

ジェイアール東日本企画 **キ7コト**
 オンライン相談室
 広告施策のお困りごとは、オンライン相談で解決できます。
jeki ジェイアール東日本企画 秋田支社

観光に関するお問い合わせ
仙北市田沢湖観光情報センター フォレイク
 〒014-1201
 秋田県仙北市田沢湖生保内字男坂68
 TEL.0187-43-2111 FAX.0187-43-2077

角館 たいやん
 仙北市角館町駅通り
 TEL 0187-54-2367

秋田 角館 **INAHO**
 無添加のこだわり
 料亭 稲穂 食堂 いなほ
<http://ryotei.inahon.com>
 E-mail: inaho@inahon.jp
 TEL.0187-54-3311

元祖極極の比内地鶏親子丼が食べられる店
桜の里 本店 小川
 〒014-0325 秋田県仙北市角館町東藤澤丁9
 TEL0187-54-2527 FAX0187-53-3767
 〒014-0323 秋田県仙北市角館町横町27
 TEL0187-53-3003 FAX0187-53-3767
<http://www.sakuranosato.net>

仙北市観光情報センター 角館駅前蔵
 〒014-0369
 秋田県仙北市角館町上菅沢394-2
 TEL.0187-54-2700 FAX.0187-54-1755

仮設工事・築・土木工事
菅原建設
 代表取締役 菅原 清平
 仙北市角館町雲然上町屋158-11
 TEL 54-4338 FAX 55-4310

彫刻造形 木工・木型
角館 きた
 kakunodate.com

角館板皮細工センター
たてつ KABAZAIKU
 お土産処、史料館、着物体験
 〒014-0318 秋田県仙北市角館町中町25
 TEL.0187-55-1320

西木観光案内所
 〒014-0516
 秋田県仙北市西木町小山田字八津249-1
 TEL.FAX.0187-42-8480

手打らそば お祭りは冷たい肉そば
野の花庵
 角館町上野139-4 TEL0187-54-3787

西部若者 **スガワラショップ**
 清酒 西部若者 販売元
 TEL 0187-55-2242
 ワインや贈り物の贈りもお気軽に

木のぬくもりで未来を創造する
株式会社 黒澤製材所
 〒014-0354 秋田県仙北市角館町水ノ目沢 79-1
 TEL 0187-53-2504 FAX 0187-53-2505

お祭りっ子御用達
かみう屋
 仙北市角館町いせせ町(西宮家隣り)
 電話(0187)53-2413 FAX(0187)53-2422

電気設備工事施工
角館電工(有)
 角館町川原堂ノ沢26番地1
 TEL 54-2432 FAX 54-1889

あきた芸術村
温泉 ゆぽぽ
 TEL0187-44-3333

確かな技術を誇りに
株式会社 瀧神巧業
 〒014-0372 秋田県仙北市角館町小館54
 TEL.0187-54-2311 FAX.0187-54-2710

秋田地酒、民芸品の店
樹の下や よしなり
 御狩場焼肴好評発売中
 角館町表町下丁 TEL0187-55-4133

東北労働金庫 大曲支店
 3ろうきん
 TEL 0187-63-4100

パソコンサポート
infotech
 〒014-0369 角館町上菅沢458-1
0187(52)1144

マナーを守り楽しい釣りを!!
角館漁業協同組合
 〒014-0359 角館町北野62-2
 TEL・FAX 0187-55-4877

自家栽培 石臼挽自家製分十割手打蕎麦処
そばきり長助
 住所 014-0324 秋田県仙北市角館町小人町28-5
 電話 0187-55-1722

ダイナムゆったり館
中仙店
 秋田県大曲市下長野字上中嶋 51番地
 TEL0187-52-0661

ALSOK秋田株式会社
 本社 TEL 018-888-2300
 大仙支社 TEL 0187-63-8199

一般社団法人 **SEMBOKU GT**
 仙北市農山村体験推進協議会
 〒014-0392 秋田県仙北市角館町中菅沢81-8
 TEL 0187-43-2277 FAX 0187-55-1515

LAWSON
 角館岩瀬店 55-1107
 角館武家屋敷店 53-3707

株式会社 **秋田建設工業新聞社**
 〒010-0951 秋田市山王六丁目8番42号
 (編集部) 018-863-4112 (営業部) 018-863-4113
 (総務部) 018-863-4114 <http://www.akks.co.jp/>

株式会社 **北日本朝日航洋**
 〒010-0914 秋田市保戸野千代田町14-12
 TEL 018-863-8653
 FAX 018-863-8973

地球規模の環境問題に立ち向かう。
Hitz 日立造船株式会社
 〒018-863-3010 秋田市大曲
 代表取締役 村田 良太
 秋田市八橋三和町18番15号
 TEL (018)823-4345
<http://www.mrt-arch.co.jp>

株式会社 **松本印刷**
 〒014-0041 秋田県大曲市大曲丸字町1-21
 TEL 0187-63-1450
 FAX 0187-63-1627

観光 やまぶつけ 激突予定時間 9月8日開催

- 17:30 Barリーへ前
① 上新町-中央通り
- 18:30 横町十文字
② 横町-西部
- 19:00 旧角館庁舎前
③ 大塚-下岩瀬町
- 19:30 秋田銀行前
④ 駅通り-七日町
- 20:00 角館観光タクシー前
⑤ 西部-東部
- 20:30 クロサワ時計店前
⑥ 上新町-桜美町
- 21:30 ガトーやまだ前
⑦ 駅通り-川原町
- 21:30 秋田銀行前
⑧ 山根旭会-岩瀬

佐竹北家上覧

★9月8日10:00~17:30
★武家屋敷通り 旧石黒(恵)家
武家屋敷の通りが
一大時代絵巻に!!

大置山

★神明社/桶狭間の合戦 大高城兵糧入れ
★薬師堂/忠義の導き 長篠の合戦
★立町/神霊矢口渡

特別協賛
●酒王秀よし 合名会社 鈴木酒造店
●コネクト ●JR東日本秋田支社
●菅原建設 ●秋田金融懇話会

曳山

7日 16:00~ 角館總鎮守神社 参拝
8日 10:00~ 佐竹北家上覧
16:30~ 勝楽山成就院薬師堂 参拝
17:30~ 観光光山ぶつけ
9日 10:00~ 勝楽山成就院薬師堂 参拝

町内の交通規制がありますのでご注意ください
曳山運行の妨げとなりますので駐車場をご利用ください

舞台

舞① 岩瀬町(立町十字路)
伝統芸能 山囃子と秋田民謡
・浅野梅若社中
・藤原ミサ子社中
8日 ①14:00~ ②16:00~ ③18:00~
9日 ①14:00~ ②16:00~ ③18:00~

舞② 横町(横町パーキング)
民謡・歌謡・新舞踊ショー
・藤川佳子・山川大助・藤原美幸
・大曲玉扇会
8日 ①14:00~16:00 ②19:00~21:00
9日 ①14:00~16:00 ②19:00~21:00

角館子ども園ミニ山曳廻し

★角館子ども園/甕割柴田
★9月8日10:00~11:30
角館子ども園→駅通り→コマツ洋品店→神明社

<h3>岩瀬町(立町)</h3> <p>人形作者 ・広目屋</p> <h3>神霊矢口渡</h3> <p>・お舟 ・頓兵衛 ・六蔵 ・新田義興の神霊 ・新田義峯</p>	<h3>勝楽山</h3> <p>成就院薬師堂</p> <h3>忠義の導き</h3> <p>長篠の合戦</p> <p>・鳥居強右衛門 ・奥平信昌 ・武田勝頼</p>	<h3>角館總鎮守</h3> <p>神明社</p> <h3>桶狭間の合戦</h3> <p>大高城兵糧入れ</p> <p>・松平信康 ・織田信長 ・今川義元 ・服部小平太 ・毛利新介</p>
<p>南北朝の合戦で敗れた新田義貞側に対する足利軍の残党狩りが厳しい中、義貞の子・義興は、武蔵国の矢口の渡しで船頭頓兵衛にはかられ、玉川を渡る途中溺死してしまふ。義興の弟・義峯も矢口の渡しまで落ちてきて一夜の宿を求め、それが頓兵衛の家であった。頓兵衛の一人娘・お舟は頓兵衛の子分の六蔵にくどかれるほどの美人であったが、義峯を見てひと惚れをしよう。</p> <p>一方、義峯を討ち取り賞金を得たい頓兵衛は、寝所に見当をつけて刀で突く。が、刺したのは身代わりを小さくしたお舟だ。そんな娘の願いも届かぬ強欲非道な頓兵衛は逃れた義峯を小舟で追って行く。お舟は息も絶え絶えに落人捕縛の知らせの太鼓を打ち義峯を包囲網をとく。</p> <p>小舟を、頓兵衛の前に義興の神霊があらわれ新田家の家宝の矢によって頓兵衛は絶命する。</p>	<p>時は、天正三年(一五七五年)戦国時代。 武田信玄率いる赤備え武田軍は、三方ヶ原の合戦にて織田・徳川連合軍に圧勝した。徳川家康の領地・三河へ向けて侵攻するが病気に罹り武田信玄が急死してしまふ。武田軍は、本国甲斐国へ引き返すのであった。武田家のあとを継いだ武田勝頼。信玄の遺志を受け継ぎ、織田・徳川連合軍との戦いを継続し徳川の領地の長篠城を侵略し城を囲み攻撃を仕掛ける。</p> <p>長篠城主の奥平信昌は、徳川家康に助けを求めたのであった。助けの役目を預かったのが、この合戦での有名となる鳥居強右衛門。六〇キロの距離を走り援軍を請後、戻る途中武田軍に処刑されるが、この勇気と忠義心によって長篠城は守られ、織田徳川連合と武田軍の設置原での長篠大合戦が始まるのであった。</p> <p>後に連合軍は、馬防柵と新戦法・鉄砲三段撃との鉄砲隊。この作戦は、武田軍の伝統騎馬隊に壊滅的な打撃を与え総崩れし織田・徳川連合軍の圧勝で終わり、織田信長の天下統一へ向けてまた一歩近づいたのであった。</p> <p>明和七年(一七七〇年)初演。作者は福内鬼外のペンネームの平賀源内。江戸で作られた義太夫物の作品の中で傑作とされている。</p>	<p>時は、戦国時代の一五六〇年。駿河、遠江、三河の三国を支配する大名の今川義元は、京へ上洛し天下統一を目指す。 上洛への道筋には、織田信長の統治する尾張国があり戦いが始まる。先鋒を務めたのが松平信康。後の徳川家康である。信康は、極めて危険な任務を今川義元に命じられ、合戦の拠点大高城へ不眠不休で兵糧入れを征する。 しかし、兵糧入れが勝利の好機となる戦法であったが、今川義元は、織田信長に奇襲を受け、敢え無く討ち取られる。これが奇襲桶狭間の合戦である。</p>

この線で折ってご利用ください。

角館のお祭り交通規制図

9/7木

全車両通行止め区間

黄色エリア 16:00~19:00
緑色エリア 16:00~22:00 ※岩瀬町・下新町
オレンジエリア 16:00~26:00 ※下岩瀬町・岩瀬上丁・岩瀬本丁・岩瀬中丁

③:岩瀬浜丁(岩瀬北野線以南~JR高架下まで) 16:00~24:00
各曳山が角館總鎮守神社参拝の為、南側へ集中することから北側から段階的に交通規制範囲を縮小いたします。曳山運行の妨げとなりますので、交通規制解除エリアへの路上駐車・停車はご遠慮ください。

角館祭りのやま行事 実行委員会現地本部

神明社参拝 9月7日/16:00~

町内全域駐車禁止

TEL.090-1096-2754
仙北警察署現地警備本部



この線で折ってご利用ください。



交通規制図のお問い合わせ先

- 仙北市観光センター「角館駅前蔵」 TEL0187-54-2700
- 仙北市観光課 TEL0187-43-3352
- 仙北市商工会 TEL0187-54-2304
- 仙北市文化財課 TEL0187-43-3384

令和五年「角館のお祭り」曳山一覽表

曳山丁内名	正責任者	副責任者	囃子方	人形外題	作者	解説
岩瀬若者一同	鈴木 和成	柳原 良 坂本 純平 尾形 祐平	祭喜会	歌舞伎十八番 暫 鎌倉権五郎景政	広目屋	鎌倉は鶴岡八幡宮の社前。皇位へ即こうと目論む悪党が自らに反対する善良なる男女を捕え、打ち首にしようとしていた。絶体絶命となったその時「しばらく」と大きな声とともに現れたのは、2重を超える大太刀を持った鎌倉権五郎景政である。権五郎は、悪党共の首を瞬時に切り落とし、天無双の強さを前に悪党共は、なすすべなく、権五郎は意気揚々と花道を引き揚げていくのであった。
西部若者	阿部 龍哉	高橋 光 戸嶋 拓朗 伊澤 拓朗	秋月会	曙の目神なる道 鎌倉攻め ・新田義貞・龍神・脇屋義助	文 伶	源頼朝の死後、北条家が武家政権を行い、京では後醍醐天皇を始めとした皇族が、政権を取り戻すため、楠木正成や足利尊氏らと幾多の乱を起こし、政権奪還間近に迫る。鎌倉では、幕府に反旗を翻し新田義貞が率いる、攻め倦んだ義貞は曙の月 稲村ヶ崎の海へ日本刀を捧げ、龍神に祈る。すると潮が引き、現れた神なる道を通じて鎌倉に攻め、鎌倉幕府最後の執権・北条高時を打ち、新しい時代を作るのであった。
駅前若者	渡邊 亘	佐藤 義紀 藤原 務	角館町 節山囃子手踊り会	金幣猿島郡 ・清姫忠文の霊・田原藤太	葛谷流 駅前若者	清姫は恋慕う頼朝と恋敵七綾姫への嫉妬から蛇体と化します。七綾姫に執心する藤原忠文も二人への嫉妬心から鬼と化し、やがて清姫と忠文の怨霊は合体します。頼朝と七綾姫の二人が祝言を上げようとする、清姫と忠文の怨霊が頼朝と七綾姫の祟り殺そうとします。そこへ、田原藤太が現れ大立ち回りの末、怨霊を退治する歌舞伎の名場面です。
菅沢丁内若者	上藤 祐太	柴田 裕 平田 貞博 荒澤 勇希	徳月会	鬼揃紅葉将 ・平維茂・鬼女	菅沢丁内若者	美しく華やかな紅葉のさかりの山奥で、鹿狩りに来た平維茂将軍一行は、美しい上臈(じょうろう)と侍女たちの宴に誘われる。この世のものとは思われぬほど美しい上臈の酌に思わず杯を重ね、優美な舞を見ながら維茂は酔いふす。やがて夜となり神の使いが夢にあらわれ、女たちがじつは鬼であることを伝え、神剣を与える。目をさました維茂に、鬼女たちが炎を吐いて襲い掛かってくる。
本町通の	安藤 雄介	井上 善成 戸澤 和美	神代芸能保存 嬉遊会	酒井の太鼓 ・酒井忠次・鳥居元忠	広目屋	三方ヶ原の戦いに敗れ、徳川軍は浜松城へ壊走する。家康は城の門を全て開け篝火を焚くよう命じ、また今宵は節分である事から年男・鳥居元忠に豆を撒くよう申し付けた。やがて武田軍(赤鬼の山縣・黒鬼の馬場)が浜松城に到着したが、異様な光景に進撃出来ない。徳川軍・酒井忠次が櫓に昇り太鼓を叩いた。この太鼓の音を境に、敵を打ち破るのは容易では無いと武田軍は引き上げた。これが本町の「鬼は外」となった。
駒通の若者	齊藤 政範	半田 龍介 佐藤 勇太	愁明会	菅原伝授手習鑑 賀の祝 ・梅王丸・松王丸	広目屋	三つ子の兄弟 梅王丸、松王丸、桜丸。梅王丸と桜丸は管丞相、松王丸は敵対の藤原時平の舎人として仕えている。今日は父親である白太夫の七十歳の「賀の祝」。三つ子兄弟のうち、先にやてきたのは梅王丸と松王丸であった。先日、梅王丸と桜丸は吉田社参詣の藤原時平の車を襲うが、松王丸に妨げられる。その際の遺恨で、米俵を振り回しての大喧嘩となる。
西勝察町若者	井上 健太	藤川 拓郎 佐藤 和裕 羽根川 裕	秋月会	壽 柱建曾我 ・工藤祐経・曾我五郎	文 峰	源頼朝が鎌倉幕府を開いた翌年、頼朝は多くの御家人の前で権力を誇示する為、軍事訓練を含めた大規模な巻狩りを現在の静岡県、富士山の麓の裾野で計画した。主君の源頼朝から巻狩の総奉行を命じられた工藤祐経。仮屋の建て方を為すに儀式を行う。列席には工藤祐経を親の仇と狙う曾我十郎・五郎兄弟も居る。柱建は建築現場で初めて柱を立てる儀式を行うので、物で上等飾りやかけや(木槌) 大工道具など使用してめでたく演じられた。
桜美町若者	金谷 貫慈	亀谷 純亮 藤枝 尚登	節山囃子 弘道流 奏秋会	歌舞伎十八番 勸進帳 ・富樫左衛門・武蔵坊弁慶	葛谷流 桜雅会	兄頼朝から謀反人と疑われ、源義経は弁慶を先達にして山伏姿へ変装し、奥州の藤原秀衡を頼って落ち延びようとした。加賀国安宅の間に差しかけた一行、幕府から閑守となるようになるよう命ぜられた富樫左衛門。一行は東大寺再建の勸進をする山伏だと言て閑を通ろうとするが、富樫はその趣旨を書いた勸進帳を読むように言う。弁慶はとくに背負った箕の中から巻物を取り出し、勸進帳らしい文句を読み上げる。富樫は本物の山伏かどうか確かめるが、弁慶は難なく見事に答えるのだった。
七日町丁内	荒木 大輔	加藤 寛之 佐藤 秀典 千葉 博幸	わらび座	大物浦 ・平知盛	小 松	壇ノ浦の戦いに敗れた平氏の将軍・知盛が船宿の主人に身を委ねて生き延び、義経を討つ機会を狙っていた。鎧に身を固めた知盛が長年の本望を遂げるため出陣するがまたしても敗れる。知盛は大碇を背負い海中に消えてゆく。
中央通の	山谷 吉輝	田口 和就 鈴木 信哉	奏雅扇舞会	南総里見八犬伝 本郷田塚山の場 ・犬山道節・犬川莊助	広目屋	武蔵国本郷田塚山近く八犬士の一人犬塚信乃の妻・浜路は夫の手から浪人に奪われた宝刀村雨丸の奪還を試みるが、逆に刺されてしまう。そこに浜路の実の兄・犬山道節が現れ、浪人を斬り倒した。浜路は道節に村雨丸を夫へ届けることを懇願するも叶わず息絶えた。そこに信乃の盟友犬川莊助が現れ村雨丸を巡り道節と討合となるが、道節は火遁の術で身をくまらせた。やがて二人は同じ犬士であることを知り物語は新しい犬士たちとの出会へと展開していくのであった。
横町若者	岡田 光	黒澤 賢太郎 佐藤 亮迪 千葉 太生	角館山本組	源平盛衰記 俱利伽羅峠の戦い ・木曾義仲・平維盛	横町若者	義仲は平軍を狭い俱利伽羅峠に誘い込み、平家十萬の大軍を破った。義仲軍は牛の角に火をついた松明をくくりつけ敵陣に放ち平軍を俱利伽羅谷に追い落としした。この戦いで源平の勢力は逆転、義仲は入洛を果たし、平氏一門都落ちすることになる。
山根谷地町 旭会若者	佐藤 広海	八柳 健太 藤原 豊	徳月会	断固たる決意 金沢の柵越え ・鎌倉景政・清原家衡	広目屋	後三年の役、出羽の清原氏後継者争いから端を発する。鎌倉景政は十六歳、最前線でも右目を射抜かれるが、その敵に矢を射かけ討ち取り陣に戻ったという。刺さった矢を抜こうと同輩の三浦平太郎が、景政の顔を踏んだと激怒、倒れたまま為次を刀で突き刺そうとした。「弓矢で死ぬのは武士として本望。しかし顔を踏みにじられるのは堪えかねる。汝を仇として死のう。」戦いに命を懸け、名譽を重んじる景政の言動は、武士の鑑として賞賛され、大いに面目を施した。
北部丁内若者	武藤 和也	細川 正康 佐川 陽介	夢燈会	歌舞伎十八番 矢の根 ・曾我五郎時致	北部丁内若者	親の仇を討つため、貧乏暮らしでも日々鍛錬する曾我五郎時致。そんな五郎もお正月には酒を飲み、雑煮を食べるひとときがある。しかし、うたた寝をして夢に出てきたのは助けを求める兄、十郎の生霊。若々しく超人的な豪快さとして、やれやれと見せる。
上新町若者	藤枝 寛	佐々木 秀暢 細川 栄太 高関 大空	おやまばやし 清友会	時今也桔梗旗揚 ・安田作兵衛・森蘭丸	葛谷流 上新町若者	「時今也桔梗旗揚」は、明智光秀が本能寺の変に至った経緯を基に、四世鶴屋南北が書いたお芝居です。歴史的な出来事や実存する人物を描くのは、幕府の目が厳しかった時代、登場人物の名前やエピソードを少し創作も踏まえて上演されたそうです。君主への謀反をせざるを得ない状況に追い込まれていく主人公の心情をたぶり描く名作です。
下岩瀬町若者	畠山 勉	門脇 佳亮 木元 亮太	神代芸能保存会 藤原組	歌舞伎十八番 解脱 ・平景清	甘町如月会	嫉妬して男を追う人丸姫(ひとまるひめ)が釣鐘の中に入る。平景清の亡魂が娘の姿を借りて薄衣(うすぎぬ)をかぶって出現して恨みと迷いの振りの後に得脱し、景清の姿になってさえる。
東部若者	田口 雄介	高橋 淳 菊地 貴志	角館おやま囃子 櫻義会	太閤記 墨俣一夜城後流心の場 ・木下藤吉郎秀吉・蜂須賀小六	葛谷流 東部若者	桶狭間の合戦で今川義元が勝利した織田信長は、美濃国攻略のため稲葉山城の近く、墨俣(のくま)の築城を織田家重臣達に命ずるが次々に失敗に終わる。そこで名乗りを上げたのは木下藤吉郎(後の豊臣秀吉)である。藤吉郎は蜂須賀小六らと木曾川の上流で筏を組み、大雨の日に木曾川を下り墨俣で見事築城に成功。後に墨俣一夜城と呼ばれる。藤吉郎は活躍をきっかけに織田家臣団の中で頭角を現し、出世の道を切り拓いていくのである。
大塚若者	工藤 秀行	高橋 徹 京野 巧 菊池 淳一	郷土芸能 角館節山囃子保存会	山中島の合戦 ・武田信玄・上杉謙信	大塚若者	甲斐の武田信玄と越後の上杉謙信が北信濃の支配権をめぐり、一五五三年(天文三年)から一五六四年(永祿七年)にかけて、五度にわたって戦ったのが山中島の合戦である。
山原町若者	青柳 宗康	高野 豊彦 福井 和也	角館お山ばやし 扇栄会	三河物語「家康初陣」 ・松平元信・今川義元	広目屋	第四次合戦では妻・山に陣取った謙信は夜陰に紛れて山を下り、八幡原に本陣を構えた武田軍の前に深い霧の中から現れる。謙信は信玄めがけて切り込み三度太刀を浴びせ、信玄は手にしていた軍配で太刀を受け止めたと言われている。これが世に伝わる両雄一騎討ちの場面である。

解説